

種文学賞四月「さらば、平成。」 最優秀作品① (作者 中学一年生女子)

## 「令和」

次の元号は令和だった。私自身はその新元号にとまどっている。まだ令和のことがよく分からないけれど正直なところあまりいいと思わない。平成に生まれた私はやはり平成がいいと思ってしまふ。また、昔の時代の人になってしまう。でも、私が一番言いたいのはこんなへりくつではない。実はこれから先の未来のことが心配なのだ。まだ次の時代が令和ということを実感できない。戦争が起きるかもしれないし、大きな地震が起きるかもしれない。何やらと心配だ。

平成でも阪神大震災など悲しい出来事がたくさん起きた。もちろん新しい時代にも同じような悲しい出来事が起きるかもしれない。でも、一番重要なのは平成のように問題をどう良くしていくかを少しずつでいいので真剣に考えられるかということだと思う。どの時代でも問題が起きることは仕方がないかもしれない。でも、平成のときのように日本全体が一丸となってその問題についてすこしでも努力することが大切だ。

私は令和の未来のことを悲観的に考えすぎたかもしれない。令和という言葉には「よく、なごやか」という意味がこめられている。だから、その意味のような時代になる気がする。平成よりもっともよい時代になると。たとえば、つらいことがあっても助け合いみんなと共にならばと私は決めた。

種文学賞四月「さらば、平成。」 最優秀作品② (作者 小学五年生女子)

## 「さらば、平成」

平成には、色々たくさん地しん、津波、ふん火、竜巻がありました。私がけいけんした大きな地しんは、二〇一六年十月二十日の鳥取中部地しんです。私が二年生の時でした。

私は友達といっしょに下校していました。門戸厄神に電車が停まり、ドアが開いた時、グラッと横にゆれました。たった三秒ほどだったけれど、もっどゆれていたような気がしました。あちらこちらからけいたい電話のけいほうが鳴ったのも、びくびくしながら聞いていました。それから一分ほどたち、地しんだ、地しんだと、こうふんしてきました。電車が停まっていたのは、五分ほどだと思います。電車が動いてからも、おちつけずにいました。

日本は災害が多い国です。平成三十年を一つの漢字にたとえたら、「災」の字になったほどです。令和は、平成のように災害の多い年ではなく、「福」や「幸」の字になる年が多くなると思います。

でも、今は二さん化したんそが関係する、地球温だん化の問題があります。文化が進めば、それを令和内に解決することができるとも知れませんが。その問題が解ける事を願います。

でも、もう数日で平成から令和に変わってしまう事にはさみしい思いもあります。

私は新しい年号が令和だと聞いた時、また「和」にもどってしまったとおしい気持ちになりました。なぜなら、年号は和の入っている昭和から和の入っていない平成になったのに、また和の入っている令和になったからです。

「和」は和風の「和」で日本に合った言葉だけれど、昭和の前は大正、その前はけいおうでした。「和」がついていないので、「和」がついている年号は新しい年号なのかもしれません。平成までの年号は、天のうが亡くなってから決まっています。天のうが生き続けている間に終わる平成の次の年号だからこそ、特別な年になってほしいです。